

令和7年度第2回横浜市障害者施策検討部会会議録	
日 時	令和7年12月8日（月）午後3時00分～午後3時52分
開催場所	市庁舎18階みなと1・2・3会議室
出席者	赤川真委員、飯山文子委員、内嶋順一委員、河合高鋭委員、倉澤政江委員、坂田信子委員、清水武彦委員、須山優江委員、堀内哲也委員、港 裕樹委員
欠席者	小野孝俊委員、奈良崎真弓委員
開催形態	公開
議題	報告事項 （1）第5期障害者プラン策定にかかるグループインタビュー等の進捗状況について
決定事項	
議 事	<p>開 会</p> <p>（富田係長） それでは、定刻になりましたので、ただいまより令和7年度第2回横浜市障害者施策検討部会を開催いたします。本日の司会を務めさせていただきます。健康福祉局障害施策推進課計画推進担当係長の富田でございます。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>障害福祉保健部長あいさつ</p> <p>（富田係長） 本日、内嶋会長が少々遅れていらっしゃるご予約と聞いておりますので、申し訳ありません、先に障害福祉保健部長の片山から一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>（片山部長） 皆様、こんにちは。障害福祉保健部長の片山です。気温も下がってきて、天気はいいんですけども、お越しいただいてありがとうございます。皆様から、またご意見ということいろいろと頂きたいところですが、本日については、障害者プランの件に関するグループインタビューの進捗状況ということでご報告させていただきます。</p> <p>もうすでにご案内のとおりですが、9年度から14年度までの6年間の計画ということで今進めているところですが、現在のところ、グループインタビューを実施しまして、先般、当事者策定検討委員会の1回目を開催したところです。ご協力いただいた方、本当にありがとうございます。この後、当事者向けアンケートの実施方法や内容についてもご説明いたします。よりよいプランにしていきたいと我々は思っておりますので、ぜひ本日も忌憚のないご意見を頂ければと思います。どうぞよろしくお願いたします。以上になります。</p> <p>（富田係長） それでは、議事に入る前に、本日初めて部会にお越しいただきました委員のご紹介をさせていただきたいと思っております。鶴見大学短期大学部保育科准教授でいらっしゃいます河合様でございます。</p> <p>（河合委員） ありがとうございます。鶴見大学から参りました河合と申します。</p>

専門は特別支援保育であったり、特別支援教育を担当しております。今後ともよろしくお願ひいたします。

(倉澤委員) 前任の安富と交代しました、横浜市精神障害者家族連合会の倉澤と申します。よろしくお願ひいたします。先々週、インフルエンザにかかって回復したんですが、まだ時々せきが出ますので、ご迷惑かけますけれどもよろしくお願ひいたします。

(富田係長) 続いて、精神障害者地域生活支援連合会共同代表の港委員、よろしくお願ひいたします。

(港委員) 横浜市精連から参りました、泉区生活支援センター所属の港と申します。横浜市精連も役員体制の変更がありましたので、それに伴っての委員変更となっております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

(富田係長) 3名の方、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、議事に入る前に、本日のご出席者数の確認をさせていただきます。本日の会議は、委員12名のうち10名の方がご出席となっております。横浜市障害者施策推進協議会条例第5条第2項に規定されております委員の半数以上を満たしていることをご報告させていただきます。

ここからは内嶋会長にご挨拶をお願ひし、議事進行をお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

(内嶋会長) 皆様、こんにちは。すみません。毎度おなじみのぎりぎりに飛び込みということで、事務所を出ようと思ったら電話がかかってくるというもうやくごさいません。それで、皆さん、すみません、師走の大変お忙しい中、お集まりいただいて恐縮でござひます。今日も障害者の施策に関するいろいろな議題がござひますので、ご審議のほど、ひとつよろしくお願ひします。

報告事項

(1) 第5期障害者プラン策定にかかるグループインタビュー等の進捗状況について

(内嶋会長) それでは早速、次第に従って進めたいと思ひますが、次第の3の報告事項、第5期障害者プラン策定にかかるグループインタビュー等の進捗状況についてということで、事務局からご説明をお願ひします。

(中村課長) 健康福祉局障害施策推進課の中村でござひます。資料に基づいてご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。お手元の資料1をご覧ください。第5期障害者プラン策定にかかるグループインタビュー等の進捗状況について説明させていただきます。

1、趣旨ですが、第5期横浜市障害者プランの策定に向けて行ったグループインタビューの実施状況についてご報告させていただきます。また、当事者策定検討会及び当事者向けアンケートについてもご説明させていただきます。

2、グループインタビューについてですが、6月から9月にかけて、当事者やご家族、障害関係団体等に対して、現状やニーズを把握するためのインタビューを行いました。実施回数は計37回、内訳といたしましては、当事者18回、家族11回、支援者10回となっています。具体の実施先については、別添1を後ほどご覧いただければと思います。複数の団体や当事者・支援者等で実施した回もございまして、実施回数と内訳の一致はしていない状況でございます。

3、当事者策定検討会ですが、11月22日に第1回として当事者同士で意見交換や検討を行い、第5期プランの構成や内容についてご意見を頂戴しました。検討内容として、グループインタビューで出た意見を参考に、6年後の理想の社会・暮らしをかなえるために必要なことや課題について、また、第5期プランの構成や概要の案、当事者向けアンケートの案、障害者プランの冊子の形について、ご意見を頂きました。参加者についてですが、障害別に合計36人の方にご意見を頂くことにしておりますが、当日ご欠席の方等もございましたので、参加者としたしましては30名でございました。

裏面、次のページをご覧ください。第2回当事者策定検討会についてですが、年明けまして令和8年2月21日土曜日、10時から12時の開催を予定しております。第2回につきましては、障害者プランの骨子についてご意見を頂く予定としております。

4、当事者向けアンケートについてですが、令和8年1月頃に本市の各障害者手帳所持者の10%程度の方に対して、無作為抽出によるアンケートを実施します。この当事者アンケートにつきましては、さきの障害者施策推進協議会等でもご説明等させていただきまして、こちらの部会でもご説明させていただいているところでございますけれども、障害の手帳所持者の方の10%ということで、所持者の数が増えておりますので、今回の資料から対象が1000人増えた形で、1万900人とさせていただいているところでございます。なお、質問項目については、当事者策定検討会、横浜市障害者施策推進協議会、障害者施策検討部会で頂戴したご意見等を参考にした上で作成してまいります。現時点でのアンケート用紙は、別添2をおつけしておりますので、ご覧いただければと思います。

5、今後のスケジュールですが、令和8年1月に当事者向けアンケートの実施、令和8年2月に障害者施策検討部会、当事者策定検討会を開催いたします。また、令和8年3月に障害者施策推進協議会を開催する予定でございます。

資料には記載しておりませんが、翌年度、令和8年度につきましてはプランの素案を作成し、パブリックコメント、市民意見募集を実施するなど、8年度中の策定を目指した作業をしていく予定となっておりますので、検討部会の委員の皆様におかれましてもお力添えをよろしくお願いいたします。

先ほど4の当事者向けアンケートのところでご説明させていただきましたアンケートの様式等についてですけれども、横浜市施策推進協議会でありますとか、

当事者検討会でご意見等を頂戴しております、そのご意見を踏まえて変更した項目もございますので、変更点等も含めて、担当の富田係長からご説明させていただきます。

(富田係長) 計画推進担当係長の富田でございます。引き続きアンケート案についてご説明させていただきます。当事者向けアンケートの案につきましては、本日、改めてお配りいたしましたカラー刷りのアンケート案をご覧ください。机の上に配付させていただいております、こちらのカラー刷りのほうです。そちらをご覧ください。前回の10月末の推進協と、11月22日の当事者策定検討会のご意見を反映したのとなっております。事前の説明資料の配付時には全ての修正が間に合っておりませんでしたので、本日改めて修正したアンケートでご説明させていただきます。主に赤字の箇所は、推進協委員または関係部署からご意見を頂き修正したところ、青字の箇所は、当事者策定検討会でご意見を頂いて修正したところとなっております。修正箇所には全て下線も引いております。ご参考になさっていただければと思います。

まず、全体として設問数が多いというご意見と、後ほどご説明いたしますが、問14の回答方法が分かりにくい、用語を分かりやすくしてほしいなどのご意見を頂きましたので、主にその修正を行っております。こちらのお配りした資料の、まずアンケートの表題でございますが、「当事者向けアンケート」となっていたものから「第5期横浜市障害者プラン作成のための」と、アンケートの目的が分かるように修正しています。また、推進協の委員から、当事者が直接回答の難しい場合でも、ご家族や支援者の力を借りて、なるべく当事者の状況を反映できるように促してほしいというようなご意見を頂きましたので、注意事項の2つ目、赤字でその旨を記載しております。さらに、注意事項の青字部分になりますが、用語が難しい、分からない問いや、量が多いと回答しなくなってしまうので、分割して回答できることや分かりやすくしてほしいというご意見がありましたので、回答したくない問いや分からない問いは無回答でよいということや、少しずつ回答していただいても大丈夫であるということも、こちらの青字で最初の注意書きに追記させていただきました。また、適宜、問いに「分からない」という選択肢を加えております。また、設問数についてですが、大問で40問ありましたものを、5問減らして35問としております。さらに、小問を3問減らしてしております。減らした問いの例ですが、性別をお聞きする問いを減らしたのと、また、推進協と当事者策定検討会の両方のご意見で頂きました収入の金額を聞く設問を減らすなどしております。

続いて、それ以外の主な修正についてご説明いたします。2ページ目になります。問5、あなたの収入源は何ですかというところの1番「給料・工賃」という選択肢でしたが、個人事業主だと当てはまらないことや、工賃が人によって答えにくいのではないかというご意見から、「働いてもらったお金」に修正しております。

また、問6～8は全ての方にご回答いただく形式となっておりますが、ご自分の障害手帳のことでお答えすればよいように案内文の追加をいたしました。また、問6～8で手帳の等級をお聞きしておりますが、等級が変化した方もいらっしゃると思いますので、現在の等級をお聞きする設問に変えております。また、問6-2のように、同じく障害の等級が変化している場合、取得した年齢はいつのときを書くのか迷うというご意見を頂きましたので、初めて取得した年齢をお聞きする問いに変えております。また、幼少期などに取得していますと、いつ取得したかわからないというご意見もありましたので、選択肢「8. わからない」を追加しています。これらの修正は、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳、難病の方向けの問7～9を、こちらではまだ修正しておりませんが、同じように修正する予定となっております。

また、3ページの問7の次が問8-1になっておりますが、すみません、こちらは間違いで、問7-1に修正いたします。

続いて、回答方法が分かりにくいと多数ご意見がありました6ページの問14についてご覧ください。こちらの問14につきましては、回答いただきたい内容が、①困り事の有無、②困ったときの相談先と、表で横に2つ質問が続いていく形式になっておりますので、その回答方法が従前のものと変わりますので、矢印と番号を加えることで、順番の向きが見えるようにしました。また、小問の最初に答え方の例を加えるようにいたしました。

また、11ページになりますが、問23、問24は、近所の人とのお付き合いや余暇について、現在の程度と今後の希望をそれぞれ聞いておりましたが、併せてどうしたいかというこれからのご希望を聞く設問にいたしました。

また、11ページの問25から26につきましては、就労の状況を聞く設問が続きますが、就労、働く、仕事という文言をそれぞれ使っていましたが、就労という言葉が当事者の方はあまり使わないというご意見や、用語を統一してほしいというご意見が推進協及び検討会でございましたので、なるべく「仕事」という言葉に統一するように変えております。

また、これらの今までの質問の中で「その他」という選択肢がありますが、具体的な内容を書く欄がないということ、また、問いにはないことでお伝えしたい内容を書く欄が欲しいというご意見がありましたので、一番最後の問35を、ご意見・ご要望だけではなく、それらも書くことができる欄と併せていたしました。

ご説明を割愛している箇所は、文言の修正や関係部署からの希望によりそのほか修正した箇所、また、6年前から事業名が変わった箇所などを修正しているということになります。アンケートの主な説明は以上となります。よろしく願いいたします。

(中村課長) 富田から説明させていただきました。施策推進協議会、また、当事者の検討の会が出た意見を反映しているところでございます。先ほどの資料1のご

説明でも記載させていただいておりますけれども、1月からのアンケート実施ということで、かなりタイトなスケジュールで進めさせていただいているところもございますが、しっかりとアンケートを取って結果を出していきたいと思っております。また、本日もご意見を頂いて修正等していきたいと思っておりますので、ご意見頂戴できればと思っております。よろしく願いいたします。

(内嶋会長)事務局のご説明ありがとうございました。特にアンケート案については、私から事前に色づけができないかという無理なお願いをしたところ、きれいに反映していただきまして、大変分かりやすくなっております。ありがとうございます。それでは、今ご説明があった第5期障害者プラン策定にかかるグループインタビュー等の進捗状況についてご質問・ご意見のある委員の方、ご発言をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。それでは、飯山委員、お願いします。

(飯山委員)ありがとうございます。飯山です。当事者策定検討委員会に、先日うちの法人の利用者が参加させていただいて、何かすごくやる気になって帰ってきて楽しかったとは言っていたんですけども、いろいろな考え方があるのであれなんですけれども、グループを年代別に分けたところに入ったら、知的の人は結構、こういうところに出られるのは年齢の人が多くので、うちは60代以上のところに行っただすね。心障の方とか精神の方と一緒にグループだったので、うちの法人の中ではとても優秀というか、知的にハンディキャップが軽い当事者なんですけれども、すごく気後れしてしちゃって、バスの減便のところからすごく加わられたとは言っていたんですけども、知的の方たちは、やはり知的なハンディキャップのない方たちの集団の中に入っていってしまうとちょっとついていけないというか、気後れしてしまふところがあって、その辺、もう一回2月にありますよね。とても楽しみにしてはいて、何言ってもいいからとは言っているんですけども、よその、ほかの方はどう感じたのかなと思ひながら、知的だけで集まっちゃうのもどうかなと思ひつつちょっとだけ気になったので、一応、意見として伝えておきます。

(内嶋会長)ありがとうございます。何か事務局からコメントはありますか。

(中村課長)ライフステージごとの困り感であったり、課題であったり、施策をどうしたいのかという部分の、ライフステージでやるといいんじゃないかということもありまして、今回、初めてやらせていただきました。私どももその場に、ファシリテーター役であったり、記録役であったり、私も含めて入っていたんですけども、やはり飯山委員の言われるように、それぞれの障害の状況によって、横軸、年齢という軸ではない、障害という軸というんですかね、種別という部分の観点も考えていかなければならないというのは私どもとしても感じたところです。こちらとしても課題感を持っているところがございますので、2回目に向けて、どういうやり方が理想か考えていきたいと思ひます。ありがとうございます。

(内嶋会長)飯山委員、よろしいですか。

(飯山委員)はい。

(内嶋会長) ありがとうございます。それでは、須山委員、お願いします。

(須山委員) 須山です。このアンケートの配布方法または回収方法が分かっているば教えていただきたいのですが。

(富田係長) 配布方法ですが、基本的には抽出した1万9000人の方に郵送で配布させていただきます。回答方法につきましては、その郵送の中に入っています返信用封筒でそのまま手書きで書いて送り返していただくか、もしくは、こちらのアンケートの表紙にございますように、横浜市の電子申請システムから回答ができるようになっております。2次元コードを讀んでいただくとこちらのリンクに飛ぶようになっていまして、そちらからもご回答ができるようになっております。

(内嶋会長) 須山委員、よろしいですか。ありがとうございます。それでは、赤川委員から先をお願いします。

(赤川委員) グループホーム連絡会の赤川です。よろしく申し上げます。まず、グループインタビューについてですけれども、ちょうど前回の4期プランをつくったときにも同じ取組をなさっていると思ってそのときの資料を見返していたんですけども、関係団体等へのグループインタビューは48回やっていました。当事者が29回、家族が13回、支援者が17回。それと比較すると、今回は2割弱ぐらい回数が減っているんじゃないかと思ったので、どういった理由で減ったのかを聞きたいというのがまず1点。

それと、この当事者アンケートに関して言いますと、前回もほぼ同じ内容で取り組んでいるかと思うんですが、実施しているのが7年前になるかと思えます。なので、このプランの素案を来年度つくっていくというタイミングでちょっとタイトではないかと思うんですが、そこら辺の時間というのはどうなのか聞きたいと。その2点、教えてください。

(中村課長) グループインタビューについては、回数としてといたしますか、減っているのは確かでございます。同じ対象者といいますか、例えば就労支援センターについては、同じ就労支援センターだったんですけども、何か所かやってきたということがございまして、そういった中で、同じ種類の部分について合同でいたしますか、全体でまとめて意見を聞くような形で実施したことで減っているところもございまして、なかなか団体様のご負担の中で回数を減らしたいでありますとか、あとは心障系の団体さんで個別の障害状況で開催したのを、2つの障害種別の団体さんを一緒にやるというご意見が出たりしまして、全体として、事務局側で減らそうということではなく、結果として減ってきているところがございまして。ただ、全体として、効率的なやり方ということではないんですけれども、結果としては全ての意見が、あらゆる障害の方、当事者の方、団体の方から頂けたかなと思っております。

スケジュールについては、確かにタイトなところはございますが、しっかりと限られた時間の中で取り組んでいきたいということで、限られた時間でやっていき

いということしか今のところお答えが難しいところではございますけれども、精いっぱいやっていきたいとおもいます。

(内嶋会長) 赤川委員、よろしいですか。

(赤川委員) はい。大丈夫です。

(内嶋会長) それでは、坂田委員からもご希望があったのでご発言をお願いします。

(坂田委員) 坂田と申します。1万9000人と人数を先ほどおっしゃったんですけれども、これは障害者手帳を持っている方の何%ぐらいになるのでしょうか。全体ですよね。

(中村課長) 全体で今、障害者手帳を所持されている方が19万人いらっしゃいますので、その10%、1割の方にご意見を頂戴するという形で考えているところがございます。

(坂田委員) ありがとうございます。

(内嶋会長) ほかにご意見のある方。それでは、飯山委員、よろしくをお願いします。

(飯山委員) 度々すみません。このアンケート、1万9000人の中には、当然グループホームとか入所施設に入居されている方も選ばれるかもしれないですよ。送付先は施設になるんですかね。それとも受給者証、住民票を置いている実家になるんですかね。人によっては住所を、住民票を移さずにいる人もいるし、住民票を移している人もいるし、住民票を施設に移してなくても家と疎遠になっていたりとかいろいろあったりして、どこに送られますかね。

(中村課長) 最終的に確認はいたしますけれども、前回やった私の記憶だけで申し上げると、様々な書類の送付先情報としてお届けいただいているところにお送りしていたように承知しています。例えば、この場でどうしゃべっていいのかあれですけれども、DVの方でありますとか、普通に郵送が難しい方等もいらっしゃいますので、そういったことも含めて送付先の設定ができるようになっておりますので、そういった送付先にお送りするというところでやっております。

(内嶋会長) 事務局、取りあえずそれでよろしいですか。飯山委員もよろしいですか。後見人がついている方は、多分、後見人のところに。

(中村課長) そうです。

(内嶋会長) 私も届出を出しているんですけれども、そうなりますよね。

(中村課長) はい。

(内嶋会長) 倉澤委員、お願いします。

(倉澤委員) 同じように、精神の場合、住所が病院にあればですけども、入院している方は病院に送られると思います。せっかく送られたアンケートだから、やはり回答してほしいという思いがすごくあるんですけども、そのあたりの入院している人がどのぐらい回答に協力してもらえるのか。本人の意思とかそういうの

がちゃんと反映されるのかなというのがちょっと心配で、病院での生活が長くなっている理由とかそういう設問があるので、入院している方の意見というのをちゃんと拾い上げていただきたいという思いでいます。

(内嶋会長) 事務局から何かコメントはありますか。

(中村課長) ありがとうございます。先ほど飯山委員からもお話いただきましたけれども、グループホームに入居されている方とか、様々な住まいの形の方、入院されている方もいらっしゃると思いますので、関係する支援者の方にこういった調査をしていることをお伝えし、ご協力いただくようなお願いをしていきたいと思っております。いずれにしましても、様々な形で回答に対するお手伝いをしていく必要性のある方もいらっしゃると思いますので、十分にご意見がお戻りいただけるようにこちらとしてはやっていきたいと思っております。

(内嶋会長) 事務局、ありがとうございます。これは今ぱっと思いついたことで、送付先を選定するのはなかなか難しいんですけども、仮に病院に届きましたというときに、はいと本人に渡すのではなくて、ご本人にどこまで回答できる力があるのか様々だと思うので、支援が必要な方には支援者にご協力をお願いしますということを、一般的に広めていただくのもいいんですけども、例えば同封しておくような形で、支援してもらうかしてもらわないかももらうかもらわないかは本人が選べばいいだけの話ですから、本人が助けてほしいと言うのであれば、そういったものが横浜市から1枚入っていると、それはそれで効果があるのかなと思ったりします。これは単なる一つのアイデアですけども、工夫していただければ、よりご本人の意向が反映されるアンケートになるのかなと思います。今、たまたま複数の方から同じような意見が出て、これはかなり強い意見だと会長も承知いたしましたので、事務局、ひとつよろしくお願いします。

(中村課長) ありがとうございます。工夫してまいりたいと思っております。

(内嶋会長) それでは、グループインタビュー等の進捗状況についてご意見、堀内委員、お願いします。

(堀内委員) 地域活動ホーム連絡会の堀内です。お世話になります。アンケート案の14ページの問29のところですが、主に歯科クリニックを受診していますかという問いかと思いますが、口腔ケアとか虫歯、歯周病と並んで歯科医師会さんと一緒に進めているもう一つの大きいテーマが嚥下です。飲み込みであったり、むせであったり、食事の困り事というか、そういったニュアンスも入れていただくと、多分、歯医者さんたちにお願いでいく上での設問かと思われるので、そのあたりに触れさせていただくといいのかなと思います。地域生活をいろいろ一緒に過ごしていて、かなりの方が年齢とともに直面するテーマが嚥下のあたりですので、そのあたりを反映していただければありがたいなと思っておりました。お願いします。

(内嶋会長) すみません、堀内委員。もし今のご希望をどこかこの案の中に入れてみるとするとどのあたりかという、何か具体的なご希望はありますか。

(堀内委員) アンケートは多分、簡略化するべきというところがあるので申し上げにくいのですが、やるとすれば29のところ、「口の健康、食事での困り事などで」というような入れ方をするか、別で入れるかがよろしいのではないかと考えております。

(内嶋会長) ありがとうございます。事務局、今ご意見が出たんですけれども、何かコメントはありますか。

(中村課長) 施策推進協議会で二宮委員から、歯のことでなくて口の健康、口の中も大事だということがありまして、今回、アンケート用紙に口の関係の項目を追加させていただいております。堀内委員の言われる飲み込む力というんですか、口からもうちょっと先の部分のことも、確かに嚥下指導等もございますし、そういう取組も必要だということは承知しておりますので、書き方について工夫して考えてまいりたいと思います。重要なことだと思いますので、ありがとうございます。

(内嶋会長) 事務局、ありがとうございます。飯山委員、お願いします。

(飯山委員) 今の嚥下なんですけれども、多分、知的の施設だと、今はかなり往診の歯科で、口腔で嚥下の機能も全部診ていただけるようになってはいるので、施設にいと口の健康でそこがつながるんですけれども、「医療と健康についておたずねします」の間31あたりで、健康・医療で必要だと思うことは何ですかの中に、例えば、食べ物の状態、嚥下のこととか、少し刻みが必要になった、とろみが必要になったというところから嚥下に行くので、そっちの中で栄養面での管理・指導とか飲み込みの指導とかだと、割と在宅の人もいくのかなとちょっと思ったので、今の堀内委員の話を聞きながらひらめいたので、口にしてみました。すみません。

(内嶋会長) ご意見は堀内委員と同じ趣旨だと思いますので、どこの問いに滑り込ませるかというテクニックの問題かなという感じもします。お二人から同じ意見が出ているということで、障害の方もは非障害者の方と比べて老化が早いので、確かに嚥下のことは気にされたほうがいいのかと思いますので、事務局で工夫していただければと思います。

(中村課長) ありがとうございます。

(内嶋会長) ほかに。港委員、お願いします。

(港委員) 一番最後の問35のところ、自由記述を入れていただけたのはすごくいいかなと思っています。ですけれども、できれば項目ごとに自由記述があったほうがいいのかとちょっと思ったりしました。ただ、ページ数の問題とかそういったものもあると思いますので、できるなら問35の上のところ、帯みたいで1本、このページでいうと「災害関係についておたずねします」というような感じで網かけされているところがあると思いますので、その他自由記述でも何でもいいんですけれども入れていただいたほうが、これ、ぱっと見だと何か災害についてのことを聞かれているように映るかなと思うので、そのあたりの工夫をしていただけると、先ほど出ていた精神科の病院に長く入院している方とかも、その理由とかを多分、自

分で書かれる方は書かれると思うんですね。なので、それをどこに書いたらいいか
とって次のページを見ても、その他は災害のことかとなってしまうと書く欄がな
いみたいな、視覚的にそういうふうに見える可能性があるのも、ページに限りはある
と思いますが、要所要所で項目ごとにその方の希望とか意思を聞くような欄が設け
られると、このことについてはこう思うというところが拾いやすいのかなと思いま
すので、そのあたり少し工夫していただけるといいのかなと思います。

(内嶋会長) 何か事務局から。

(中村課長) 港委員、ありがとうございます。これは確かに私も言われて、災害に
関するお尋ねという網かけがあつてそのまま36だと、災害のことに見えるのはそう
ですね。なので、全体を通してご意見として感じていることをお書きくださいと
か、全体を通して最後に自由意見としてお書きくださいみたいな項目の帯を入れた
いと思います。ありがとうございます。

(内嶋会長) ついでに申し上げれば、最後の質問については独立の帯にして次のペ
ージに移してしまったほうがいいかもしれないですね。というのは、障害のある方
はきれいに細かな字を書ける方ばかりではないので、ここに1枚、思いのたけをぶ
つけてくれという感じで1つつくっておくと書きやすいと思いますし、たくさん書
いていただけるかもしれないので、そんな感じの形式的なレイアウトの工夫もお考
えください。よろしくお祈いします。港委員、続けてどうぞ。

(港委員) 今、内嶋会長からあつたように、別にさせていただくのはいいかなと思
うんですが、その際に少し例を載せていただけるといいかなと思っています。例えば
就労のこととか、生活のこととか、医療のこととか、何でも書いていいんですよ
ということがより分かりやすいような表記があつたほうが、書き手としては自分の思
いが書けるかなと思いますので、そのあたりも工夫していただけるとよりいいかな
と思いました。

(内嶋会長) では、今の意見も踏まえて最後のところは工夫をひとつお祈いしま
す。ありがとうございます。ほかにはよろしいですか。清水委員、よろしくお祈い
します。

(清水委員) 瀬谷支援学校の清水といいます。よろしくお祈いいたします。進捗状
況と直接関係ないのかもしれないですけども、当事者の方にグループインタビュー
をしたということで、その出た意見というのは、どのような意見が出たかという
のは、どこかに記録として開示されているのかというのがちょっと気になっていま
す。私たちの学校は学齢期の10代あるいは10歳未満の子供たちが学んでいますの
で、その子たち、その家族も含めてどのようなことがそこに書かれているのか、答
えているのかがちょっと気になったということと、あえてそれを開示しないとい
うことは、開示することによって、その意見に引っ張られてアンケートを記入して
しまうということの危惧もあるのかなと。そのあたり教えていただけるとありがた
いかなと思っています。以上です。

(内嶋会長) ありがとうございます。今いろいろとご質問が出ましたので、事務局からコメントをお願いしたいんですけども。

(中村課長) グループインタビューでかなり様々なご意見を頂戴してまして、ページ数にすると三桁を超えている状況でございます。どういう形で表に出していくのかというのを今、事務局として検討している段階でございます。会議等でお示しできるようにしていきたいと思っております。

(富田係長) 引き続き富田でございます。当事者策定検討会では、このグループインタビューの意見を踏まえてテーマを考えるということで、グループインタビューの概要のまとめの資料は既にお渡しして出しているところでございます。やはりそういった数ページのものにしたほうが見やすい、分かりやすいとは思っておりますけれども、実際にかなり平易な言葉で分かりやすくまとめているものですから、外に出すということになりますと、ご意見を頂いた方々のご意思とちょっと違う表現になっていないかということも踏まえて、もう一度精査した上でまとめたもので出したいと思っております。

(内嶋会長) 事務局、ありがとうございます。私も今、実は生データを公表するのはいかがなものかと。私は法律家なものですから、発言された方のご意思、例えばこれはあらゆる人にオープンにしますという前提でお話を伺っているのならばいいんですけども、恐らく結構プライベートやパーソナルなことも伺うためにあえて踏み込んである部分もあるので、公表に関しては慎重におやりになったほうがいいかなというのが会長からの意見であります。一方で、今おっしゃるように、もし可能であれば、ある程度ご本人の声に近い形のまとめ版は、どこかで出していただくと、それはそれで障害者理解というか障害者の本音というかお考えというのを知る機会にもなるのですが、そのあたりはいろいろ微妙な問題も抱えていますし、データ管理をされているのは横浜市になりますので、市の中のきちんとした手順を踏んでいただくことにもなると思います。今、貴重なご意見・ご質問がありましたので、それを踏まえた上でのご検討をまたお願いしたいと思います。清水委員、それでよろしいですか。ご趣旨はよく分かりましたので、ありがとうございます。飯山委員。

(飯山委員) 度々申し訳ありません。今のグループインタビューの内容を簡単にしても公にするのであれば、当事者策定検討委員会だけではなくて、各団体のグループインタビューは同じようにまとめるものなのかなと。というのは、当事者の声だけを聞いてプランをつくり出すというのではなく、横浜市の障害施策プランなので、やはりいろいろな団体のいろいろな立ち位置の人たちの、立場が違えばそれは確かによその団体はこういう見方をするのかと聞いてみたい気はしますけれども、私は逆に今、清水委員のお話を聞きながら、聞いてみたい気はするけれども、それを聞いて当事者だけ聞くのはむしろどうなの、公開しちゃうのはいろいろなルールにのっとったとしてもどうなのかなと私は思った次第です。

(内嶋会長) ありがとうございます。事務局では当然、節度を持った取扱いをしていただけたと思いますし、あくまで私が申し上げたように横浜市が今持っているようなデータでありますし、本来のアンケートの趣旨というのもあると思いますので、そのあたりは今いろいろなご意見があったということ踏まえた上でお考えいただきたいと思います。何かコメントはありますか。

(中村課長) 全体で100ページを超えるような大きなものがあって、それを繰り返しくになりますけれども少し精査して、出せるものについては会議で出していきたいと思っています。先ほど富田が申し上げましたように、当事者の方から出た膨大な中から多かったものについて、こういうお声がありますというのをピックアップし、当事者の検討会で、出てきていただいた30名の方にどう思いますかというところを深めていただいたところでございますので、抽出した主なものをお出しするのか、もう少し中間的なものをお出しできるのかというのは中で精査していきたいと思っています。ただ、飯山委員がおっしゃるように、そのまま出していいのかという部分も含めて、あと当事者のことだけでいいのかというところも含めて考えたいと思いますので、ありがとうございます。

(内嶋会長) ありがとうございます。大分活発なご議論をいただいたんですが、よろしいですか。赤川委員、よろしくお願いします。

(赤川委員) 6年前と大体似たような質問が多いかなど思っていて、前回の分析結果も、私が覚えているところで幾つか興味深いところがありました。私はグループホームの立場で見ているんですけども、あなたは将来どこで生活したいですかという答えが、家族が書いたときと、職員の立場で書いたときと、本人が書いたときで全然違っていたというのは思っています。本人が書いたときには、将来は自宅で暮らしたいという方が多分、一番多かった。支援者とか家族になると、自宅ではなくてグループホームとか入所だったりとか、そういう回答が非常に多かったというのは記憶にあります。なので、6年前のアンケートと今回のアンケートの結果がどういうふうに変っていたのか、そこら辺を見てほしいなと思っているので、もし間に合えばぜひそこら辺も分析していただければと思っています。よろしく申し上げます。

(内嶋会長) 赤川委員、ありがとうございます。いや、今、赤川委員がおっしゃったことというのは、私はもう当然そうなるだろうなというような、実は答えを見る前からよく予想がつくところで。だから今、意思決定支援ということが強く言われているのでありまして、支援者や親が、親というか家族が決めてしまうということが障害の世界では今までまかり通ってきたのですが、それを克服するためにもこのアンケートはあると思いますので、事務局、その辺をご理解いただければと思います。よろしく申し上げます。

(中村課長) ありがとうございます。

(内嶋会長) さて、活発なご議論をいただいたのですが、実は想定している時間を

	<p>やや超えているところがございます、大変恐縮でございますが、だんだん時間も迫ってまいりましたので、このあたりでよろしいですかね。ありがとうございます。</p> <p>その他</p> <p>(内嶋会長) それでは、3の報告事項についてはここまでということで、4、その他について、事務局、何かございますか。</p> <p>(富田係長) 本日予定しているのはこちらの議題の1つのみとなっております、ほかの報告事項は特にございません。</p> <p>(内嶋会長) ありがとうございます。それではマイクを事務局にお返しします。</p> <p>(富田係長) 皆様、本日もご活発なご議論をいただきまして、誠にありがとうございます。本日の議論は以上となります。皆様から頂きましたご意見を踏まえてまた引き続きアンケートの修正等を行いたいと思っております。</p> <p>次回の会議につきましては、障害者施策検討部会を2月25日午後に予定しております。なお、障害者施策推進協議会につきましては、3月27日の午後または3月31日午後に予定しております。改めて委員の皆様には日程調整のご依頼をいたしますので、その際はどうぞよろしくお願いたします。</p> <p>以上をもちまして本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p>	<p>1 資料</p> <p>・ 資料1：第5期障害者プラン策定にかかるグループインタビュー等の進捗状況について</p> <p>2 特記事項</p> <p>・</p>